

8月6日：銀行株が大引け間際に売られ、VN指数は10日ぶりの反落

週末のベトナム株は売り買い拮抗した。VN指数は大引け間際に銀行株が売られたことで10日ぶりの反落となった。

ホーチミン市場のVN指数は0.3%（4.1ポイント）安の1,341.45ポイントで引けた。7月26日以来の下落となった。

午前の取引では出来高の回復を受け、多くの買いが入り、同指数は上昇を続けていた。

値下がり銘柄数が値上がり銘柄数を上回り、200銘柄が下落、177銘柄が上昇した。

しかし出来高は高水準で、売買高は約7億3,620万株、売買代金は22兆5,000億ドン（9億7,840万米ドル）を超えた。

VN30指数で大きな比率を占める銀行株が次々と下落したため、マーケットの重しとなった。結果として同指数は0.65%（9.67ポイント）安の1,476.79ポイントで取引を終えた。

同指数採用銘柄のうち、20銘柄が下落、8銘柄が上昇し、2銘柄は変わらずだった。

銀行株はこの日の下げを主導し、中でも1.31%安だったベトコムバンクは値下がり寄与度でトップとなった。

他にはVPバンク（VPB）-1.94%、ペトロベトナムガス（GAS）-1.49%、ベトナムゴム工業グループ（GVR）-1.87%、テクコムバンク（TCB）-1.33%が売られた。

ビンググループ（VIC）、ノブランド不動産投資グループ（NVL）、ホアファットグループ（HPG）、軍隊商業銀行（MBB）、サコムバンク（STB）といった大型株も大きく売られた。

その一方でビンホームズ（VHM）、ベカメックス IDC（BCM）、ビナミルク（VNM）といった大型株の一角は買われ、マーケットを支えた。ベカメックス IDC（BCM）は7%のストップ高を付けた。

だがハノイ市場のHNX指数は325.46ポイントと変わらずで、出来高も引き続き堅調でだった。

同市場の売買高は1億1,790万株で、売買代金は4兆4,500億ドンだった。

直近マーケットはもみ合っており、投資家の銘柄物色の動きは鮮明となった。

ハノイ当局が現在実施されている隔離期間を8月22日まで延長することを決めたことを受け、投資家の懸念は高まり、投資マインドは低下した。

外国人投資家は引き続き買い越したが、買い越し額は前日比で大きく減少した。

そのうちホーチミン市場で361億2,000万ドンを、ハノイ市場で42億8,000万ドンを買い越した。

ディスクレイマー

このニュースは、投資の参考となる情報の提供を目的としたもので、投資勧誘を目的として作成したものではありません。投資に関する決定はご自身の判断でなされますようお願い申し上げます。このニュースは、信頼できると考えられる FiinPro という情報源に基づいて作成されていますが、その情報の正確性、完全性を保証するものではありません。このニュースは、Japan Securities Incorporated (JSI) から直接提供するという方法でのみ配布いたしております。このニュースのいかなる部分も一切の権利は JSI に帰属しており、電子的または機械的な方法を問わず、いかなる目的であれ、無断で複製または転送等を行わないようお願いいたします。